

# 平成 24 年度 意見交換会事例集

平成 25 年 3 月

やまぐち食の安心・安全推進協議会

## 目 次

趣旨	..... 1
意見交換会の種類	..... 1
意見交換会の開催の流れ	..... 2
平成 24 年度の意見交換会（まとめ）	..... 3
平成 24 年度の意見交換会（個別事例）	..... 5

## 趣旨

「やまぐち食の安心・安全推進協議会」は、「山口県食の安心・安全推進条例」に基づき、県、市町、食品関連事業者及び県民が連携して、「食の安心・安全県民運動」を展開していくことを目的に平成21年9月に設置されました。

今後の意見交換会の参考にしていただくため、平成24年度の食の安心・安全に関する意見交換会の開催事例（全17回）をまとめました。

## 意見交換会の種類

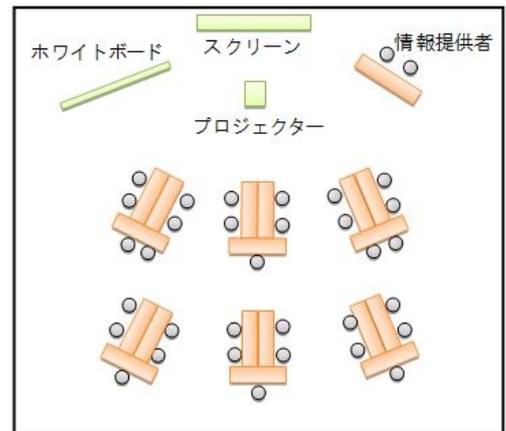
### 1 ワークショップ

参加者は情報提供を受けた後、グループ内で意見交換・討議を行い、その後、グループ発表、全体での意見交換を行い、知識・理解を深める。

（各グループに討議の進行役（ファシリテーター）を配置）

プログラム例（所要時間：3時間30分）

開始からの時間	内容
0:00	オリエンテーション・アイスブレイク
0:15	情報提供（50分程度）
1:05	グループワーク（60分程度） （グループ内で意見交換・討議し、グループの考えや質問を模造紙にまとめる。）
2:05	休憩
2:15	グループ発表（20分程度）
2:35	全体での意見交換（50分程度） （グループ発表の内容及び質問について、情報提供者が回答する。その後、追加質問があれば、参加者が自由に質問する。）
3:25	アンケート記入・閉会



<会場配置例>

### アイスブレイク

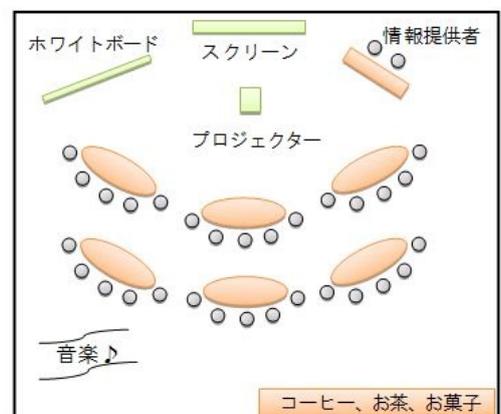
氷を溶かすように、参加者の緊張感を和らげて、話しやすい雰囲気を作るためなどに行うもので、ゲーム形式などさまざまな手法がある。

### 2 サイエンスカフェ

カフェのような気軽な雰囲気の中で、専門家などからなるべく専門用語を使わないで情報提供を行い、参加者は茶菓を喫食し、質問や意見を自由に出して、知識や視野を広げる。

プログラム例（所要時間：2時間）

開始からの時間	内容
0:00	オリエンテーション
0:10	情報提供（45分程度）
0:55	質問カード記入・休憩
1:10	意見交換（45分程度） （最初に質問カードの内容について情報提供者が回答する。その後、追加質問があれば、参加者が自由に質問する。）
1:55	アンケート記入・閉会



<会場配置例>

## 意見交換会の開催の流れ

### 事前準備

- 開催希望団体は、意見交換会開催希望連絡票（別紙 1）を生活衛生課に提出する。
  - ・開催希望日の 2 か月程度前までに提出する。
  - ・開催時間は、基本的には、サイエンスカフェは 2 時間、ワークショップは 3 時間 30 分程度とする。
  - ・参加人数は 20 ~ 40 人程度とする。
  - ・未定の項目は空欄で提出し、必要に応じて生活衛生課に相談する。
- 生活衛生課は、開催希望団体と日程等を調整し、内容を決定する。  
（参加人数が少ない場合は、参加者の公募を検討する。）
- 開催の 3 日前までの参加人数がほぼ決定した時点で、開催希望団体は参加人数を生活衛生課に連絡する。
  - （ワークショップの場合は、参加者からファシリテーターを選定し、グループワーク班編制表（別紙 2）により班編成を行う。）

### 開催当日

- 開始 1 時間 ~ 30 分前から会場設営を開始する。  
（参加者が多い場合や会場が広い場合などには、マイクを使用することが望ましい。）
- 開始 30 分前から参加者の受付を開始する。
  - ・ワークショップの場合、ファシリテーターの打ち合わせを実施する。
  - ・サイエンスカフェの場合、開始までに参加者に飲み物等の提供を行う。

### 準備品について

開催当日に以下の物を準備する。

準備品	数	準備する者
パソコン	1	生活衛生課
プロジェクター	1	生活衛生課もしくは開催希望団体
スクリーン	1	生活衛生課もしくは開催希望団体
延長コード	1	生活衛生課もしくは開催希望団体
マイク	2	開催希望団体（開催場所があれば使用）
ホワイトボード	1	開催希望団体（開催場所があれば使用）
配布資料	参加人数分	生活衛生課
ワークショップ備の場合 模造紙 カラーマジック 大判ポストイット セロテープ サインペン	グループ数+ グループ数+ グループ数+ グループ数+ 参加人数分	生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体
サイエンスカフェの場合 茶菓 質問用紙 サインペン セロテープ	参加人数分 参加人数分×3枚程度 参加人数分 1	開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体 生活衛生課もしくは開催希望団体

平成 24 年度の意見交換会（まとめ）

<平成 24 年度の開催結果>

意見交換会の開催回数	17 回
参加人数	577 人

<意見交換会一覧>

No.	形式	開催日	場所	主たる共催団体	テーマ	参加人数
1	ワーク ショップ	8月2日	山口市	山口県栄養士会	食品中の放射性物質	33人
2		8月22日	宇部市	山口県地域消費者団体連絡協議会	食品添加物	39人
3		10月19日	岩国市	山口県生活協同組合連合会	食品中の放射性物質	33人
4	サイエンス カフェ	10月23日	周防大島町	山口県食生活改善推進協議会	食中毒	36人
5		10月25日	岩国市	山口県地域消費者団体連絡協議会 山口県食品衛生協会	食品添加物	36人
6		11月2日	宇部市	山口県食生活改善推進協議会	遺伝子組換え食品	60人
7		11月21日	山口市	山口県地域消費者団体連絡協議会 山口県食品衛生協会	食品表示	51人
8		11月22日	長門市	山口県食生活改善推進協議会 山口県食品衛生協会	ノロウイルス	36人
9		11月26日	周南市	山口県地域消費者団体連絡協議会	カンピロバクター	38人
10		11月29日	平生町	山口県地域消費者団体連絡協議会	輸入食品	18人
11		12月5日	美祢市	山口県食生活改善推進協議会	食品添加物等	26人
12		12月13日	山口市	山口県立大学	最近の食を巡る話題	30人
13		1月15日	山口市	山口大学	食中毒	18人
14		1月18日	下関市	山口県地域消費者団体連絡協議会	食中毒	29人
15		1月22日	萩市	山口県地域消費者団体連絡協議会	食中毒	22人
16		1月24日	下関市	山口県生活協同組合連合会	食品中の放射性物質	31人
17		1月30日	防府市	全国農業協同組合連合会山口県本部	残留農薬	41人

No.12 は、主に食中毒について情報提供

<内訳>

形式（回数）	ワークショップ（3回） サイエンスカフェ（14回）
開催場所（回数）	岩国市（2回） 平生町（1回） 周防大島町（1回） 周南市（1回） 山口市（4回） 防府市（1回） 宇部市（2回） 美祢市（1回） 下関市（2回） 長門市（1回） 萩市（1回）

<p>主な共催団体（回数）</p>	<p>山口県立大学（1回）  山口大学（1回）  全国農業協同組合連合会山口県本部（1回）  社団法人山口県食品衛生協会（3回）  山口県消費者団体連絡協議会（1回）  山口県地域消費者団体連絡協議会（7回）  山口県生活協同組合連合会（2回）  山口県食生活改善推進協議会（3回）  公益社団法人山口県栄養士会（1回）</p>
<p>テーマ（回数）</p>	<p>食中毒関係（7回）  食品添加物（3回）  食品中の放射性物質（3回）  遺伝子組換え食品（1回）  食品表示（1回）  輸入食品（1回）  残留農薬（1回）</p>
<p>その他</p>	<p>共催団体が託児室を準備（1回）</p>

## 意見交換会事例

No.1

形式	ワークショップ形式		
開催日時	平成 24 年 8 月 2 日 (木) 13:00 ~ 16:45		
場所	山口県庁 視聴覚室 (山口市滝町 1 - 1)		
共催団体	内閣府食品安全委員会 公益社団法人山口県栄養士会		
テーマ	食品中の放射性物質による健康への影響について		
情報提供者	内閣府食品安全委員会事務局 リスクコミュニケーション専門官 久保 順一 山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
コーディネーター	内閣府食品安全委員会事務局 技術参与 二瓶 亜三子		
参加人数	33 人 (6 グループ)	参加者公募	無し
プログラム	13:00 開会・オリエンテーション・アイスブレイク 13:20 情報提供 「食品中の放射性物質による健康影響について」(50 分) 「山口県における取組状況について」(10 分) 14:20 グループワークの進め方の説明 14:25 グループワーク 1 (60 分; グループ毎の意見交換) 15:25 休憩 (10 分) 15:35 グループ発表 (10 分) 15:45 全体での意見交換 (30 分) 16:15 グループワーク 2 (10 分; ふりかえり) 16:25 閉会挨拶 (なお、午前中にファシリテーターを対象に準備ミーティングを実施)		
準備	公益社団法人山口県栄養士会 ・参加者の募集 ・ファシリテーターの選定、グループ分け  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備 (パソコン、プロジェクター 等) ・会場確保 (スクリーン有り)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・情報提供を終えた後にグループワークを行ったことで、得た知識やそこから生まれた疑問を交えながら、活発な意見交換が出来ました。疑問も発表後に解消できたため、良いグループワークになったと思います。 ・普段、接点のない様々な立場の方達と意見交換をしたり、共に考えたりできて、とても貴重だった。このようなテーマ以外でも同じような形式のワークショップがあれば参加したい。		

## 意見交換会事例

No.2

形式	ワークショップ形式		
開催日時	平成24年8月22日(水) 13:00~16:30		
場所	山口県宇部総合庁舎2階 大会議室(宇部市琴芝町一丁目1-50)		
共催団体	内閣府食品安全委員会 山口県地域消費者団体連絡協議会		
テーマ	食品添加物について		
情報提供者	内閣府食品安全委員会事務局 リクコミュニケーション専門官 間瀬 徹 山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
コーディネーター	内閣府食品安全委員会事務局 技術参与 二瓶 亜三子		
参加人数	39人(6グループ)	参加者公募	有り
プログラム	13:00 開会・オリエンテーション・アイスブレイク 13:20 情報提供 「食品添加物のリスク評価」(25分) 「山口県における取組状況について」(10分) 13:55 グループワークの進め方の説明 14:00 グループワーク1(60分;グループ毎の意見交換) 15:00 休憩(10分) 15:10 グループ発表(15分) 15:25 全体での意見交換(45分) 16:10 グループワーク2(10分;ふりかえり) 16:25 閉会挨拶 (なお、午前中にファシリテーターを対象に準備ミーティングを実施)		
準備	山口県地域消費者団体連絡協議会 ・参加者の募集 ・ファシリテーターの選定、グループ分け  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備(パソコン、プロジェクター、スクリーン 等) ・会場確保		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・グループでの情報交換で他の人の思い、考え方が共有できた。内閣府・県の取組が分かりやすかった。 ・なかなか意見が出なかったが、いろんな話が聞けて良かった。 ・内容が盛りだくさんで時間が足りない感がありました。回を重ねてくだされば内容を詳しく掘り下げることができるのでは…。		

## 意見交換会事例

No.3

形式	ワークショップ形式		
開催日時	平成 24 年 10 月 19 日 (金) 10:00 ~ 12:30		
場所	山口県岩国総合庁舎 共用第二会議室 (岩国市三笠町一丁目 1-1)		
共催団体	山口県生活協同組合連合会		
テーマ	みんなで考えよう食品中の放射性物質		
情報提供者	国立保健医療科学院 生活環境研究部特命上席主任研究官 寺田 宙		
コーディネーター	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	33 人 (6 グループ)	参加者公募	無し
プログラム	10:00 開会・オリエンテーション・アイスブレイク 10:10 情報提供 「食品中の放射性物質について」(60 分) 11:10 グループワークの進め方の説明 11:15 グループワーク (40 分; グループ毎の意見交換) 11:55 グループ発表 (15 分) 12:10 全体での意見交換 (25 分) 12:25 閉会		
準備	山口県生活協同組合連合会 ・参加者の募集 ・ファシリテーターの選定、グループ分け (その他、託児の実施)  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備 (パソコン、プロジェクター 等) ・会場確保 (スクリーン有り)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・みなさんの意見を聞きながら、自分の考えも深まったり、新たに気づく こともあり、とても有意義に思いました。やっぱり話すことで理解も深 まると思っています。  ・時間が短かったので、グループワークでの話し合いがまとまるどころま で行かなかったのが残念です。今日、学んだことは身近な人にも広めて いって、理解される人を増やしていきたいと思えます。口に入る物です し、知らずに思い込みで行動している人も多いと思えますので、これか ら学習の場を作っていただきたいと思います。		

## 意見交換会事例

No.4

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 10 月 23 日（火） 13:30～15:45		
場所	しまとぴあスカイセンター（大島郡周防大島町大字小松 125-2）		
共催団体	山口県食生活改善推進協議会、大島郡連合婦人会		
テーマ	食中毒リスクと予防について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	36 人	参加者公募	無し
プログラム	13：30 開会・オリエンテーション 13：40 情報提供 「食中毒リスクと予防について」(45 分) 14：25 休憩（15 分） 14：40 意見交換（45 分） 15：25 閉会		
準備	大島郡連合婦人会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 ・会場確保（スクリーン有り） （プロジェクターは、周防大島町のものを使用）  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備（パソコン 等）		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・このような形式の研修会は初めてだったので、とまどいもあったが、今後もチャンスがあれば参加したい。 ・難しくて分かりづらい箇所もありましたが、勉強になりました。 ・手洗いをしっかりして、食中毒を防ぎたいと思います。 ・自分の食品の取り扱いに注意したいと思った。		

## 意見交換会事例

No.5

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 10 月 25 日 (木) 13:30 ~ 15:45		
場所	山口県岩国総合庁舎 共用第二会議室 (岩国市三笠町一丁目 1-1)		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会、岩国消費生活連絡会、周東町消費者連絡会、社団法人山口県食品衛生協会		
テーマ	食品添加物について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	36 人	参加者公募	無し
プログラム	13:30 開会・オリエンテーション 13:40 情報提供 「食品添加物について」(45分) 14:25 休憩(15分) 14:40 意見交換(45分) 15:25 閉会		
準備	岩国消費生活連絡会、周東町消費者連絡会 ・参加者の募集 社団法人山口県食品衛生協会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保(スクリーン有り) ・備品準備(パソコン、プロジェクター 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・思ったより多く参加され、有意義でした。 ・次回またあれば参加したい。 ・お茶やお菓子、音楽により気楽な気分になれた。 ・食品添加物について、大変興味がありますが、問題がいろいろあるので、なるべく分かりやすい形式にしてもらいたい。		

意見交換会事例

No.6

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 11 月 2 日（金） 9:30～11:30		
場所	宇部市保健センター（宇部市琴芝町二丁目 1 番 10 号）		
共催団体	山口県食生活改善推進協議会、宇部市食生活改善推進協議会		
テーマ	遺伝子組換え食品について		
情報提供者	東京農工大学大学院 工学研究院生命機能科学部門 教授 小関良宏		
参加人数	60 人	参加者公募	無し
プログラム	<p>9:30 開会・オリエンテーション</p> <p>9:40 情報提供 「遺伝子組換え食品の安心と安全」(50分)</p> <p>10:30 休憩(15分)</p> <p>10:45 意見交換(40分)</p> <p>11:25 閉会</p>		
準備	<p>宇部市食生活改善推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の募集</li> <li>・会場確保</li> <li>・茶菓の準備</li> </ul> <p>(スクリーン及びプロジェクターは、宇部市保健センターのものを使用)</p> <p>山口県環境生活部生活衛生課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品準備(パソコン 等)</li> </ul>		
参加者の感想 (アンケート結果より)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組換え食品についての考えが少し理解できた。</li> <li>・遺伝子組換え食品は不安な面だけがあったが、有効な点もあることがわかった。 安心と安全は違うと言われたが、そのとおりだと実感する。</li> <li>・安心して食品を食べる裏に壮大なサイエンスの検証が得られていることに敬意を表したい。</li> </ul>		

## 意見交換会事例

No.7

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 11 月 21 日 (水) 13:30 ~ 15:30		
場所	山口県婦人教育文化会館 (山口市湯田温泉五丁目 1 - 1)		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会、山口消費生活研究会 社団法人山口県食品衛生協会		
テーマ	知って得する 食品表示 あれこれ		
情報提供者	消費者庁食品表示課 衛生調査官 米倉礼子		
参加人数	51 人	参加者公募	無し
プログラム	13 : 30 開会・オリエンテーション 13 : 40 情報提供 「知って得する 食品表示 あれこれ」(45 分) 14 : 25 休憩 (15 分) 14 : 40 意見交換 (45 分) 15 : 25 閉会		
準備	山口消費生活研究会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 (スクリーン及びプロジェクターは、山口県婦人教育文化会館のものを使用) 社団法人山口県食品衛生協会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保 ・備品準備 (パソコン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・本日は大変よい勉強になりました。食品表示について改めて注意して見ていきたいと思えます。 ・全体的に良かったと思う。意見交換の時間を拡大できたらと感じた。 ・初めてでしたが良かったです。私自身の理解度が低すぎて、これはいけん!!と反省です。よく商品など吟味し、表示をしっかりと見るようにしたいです。		

## 意見交換会事例

No.8

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 11 月 22 日 (木) 10:00 ~ 12:00		
場所	長門市仙崎公民館 (長門市仙崎 1 3 7 4 )		
共催団体	山口県消費者団体連絡協議会 社団法人山口県食品衛生協会		
テーマ	ノロウイルスの食中毒と予防について		
情報提供者	愛知医科大学 客員教授 西尾 治		
参加人数	36 人	参加者公募	無し
プログラム	10:00 開会・オリエンテーション 10:10 情報提供 「ノロウイルスの食中毒と予防について」(45分) 10:55 休憩(15分) 11:10 意見交換(40分) 11:50 閉会		
準備	山口県消費者団体連絡協議会 ・参加者の募集 社団法人山口県食品衛生協会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保 ・備品準備(パソコン、プロジェクター、スクリーン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・全体的に良かったと思う。平素何気なく手洗いをしていたが、 今後はもっと気をつけて洗おうと思う。 ・ノロウイルスと言葉はわかっているが、十分な知識がなかった ので、とても良かった。 ・質問形式の方法が良く、とても充実した時間を過ごすことが できました。		

## 意見交換会事例

No.9

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 11 月 26 日 ( 月 ) 10:00 ~ 12:00		
場所	周南市市民会館 ( 周南市岐山通り 1 - 4 )		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会、周南消費者協会		
テーマ	カンピロバクター食中毒の予防について		
情報提供者	財団法人東京顕微鏡院 食と環境の科学センター 理事 伊藤 武		
参加人数	38 人	参加者公募	無し
プログラム	10:00 開会・オリエンテーション 10:10 情報提供 「カンピロバクター食中毒の予防について」(45分) 10:55 休憩(15分) 11:15 意見交換(45分) 11:55 閉会		
準備	周南消費者協会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備  山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保 ・備品準備(パソコン、プロジェクター、スクリーン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・カンピロバクターは、初めて聞いた名前でした。食品のリスクを考え、熱を加えて食べることを心がけます。 ・肉料理がおいしいのでよく料理をしますが、しっかり加熱したいと思います。 ・挙手して質問するより、質問カード形式の方が疑問点をしっかり質問することが出来ました。 お答えも具体的でよくわかりました。		

## 意見交換会事例

No.10

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 11 月 29 日 ( 木 )      13:30 ~ 15:30		
場所	平生町中央公民館 ( 熊毛郡平生町大字平生村 1 7 8 )		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会、平生町消費者問題協議会		
テーマ	輸入食品について		
情報提供者	厚生労働省 広島検疫所 食品監視課 課長 山下幸夫 山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	18 人	参加者公募	無し
プログラム	13 : 30 開会・オリエンテーション 13 : 40 情報提供 「検疫所における輸入食品の監視について」( 40 分 ) 「輸入食品に関する山口県の取組について」( 10 分 ) 14 : 30 休憩 ( 15 分 ) 14 : 45 意見交換 ( 40 分 ) 15 : 25 閉会		
準備	平生町消費者問題協議会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備  山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保 ・備品準備 ( パソコン、プロジェクター、スクリーン 等 )		
参加者の感想 ( アンケート結果より )	・初めての経験で、お茶をいただきながら説明を聞いて、リラックスして聞けたことは良かったと思います。気軽に参加でき、勉強にもなり、よい時が過ごせたと思います。 また是非、違った内容でお願いしたいです。 ・こんなに輸入届出の流れがあるとは思いませんでした。 ・今日は内容や言葉が難しくテンポが速くて付いて行くのがやっとでしたが、日頃頭を使うことがないので刺激になって良かったです。		

## 意見交換会事例

No.11

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 12 月 5 日（水） 13:10～15:00		
場所	美祢市民会館（美祢市大嶺町東分 3 2 6-1）		
共催団体	山口県食生活改善推進協議会、美祢市食生活改善推進協議会		
テーマ	食品添加物等について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	26 人	参加者公募	無し
プログラム	13：10 開会・オリエンテーション 13：20 情報提供 「食品添加物等について」（40 分） 14：00 休憩（15 分） 14：15 意見交換（40 分） 14：55 閉会		
準備	美祢市食生活改善推進協議会 ・参加者の募集 ・会場確保（スクリーン有り） ・茶菓の準備 （プロジェクターは、美祢市保健センターのものを使用）  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備（パソコン 等）		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・食品添加物や農薬についてもっと知りたいと思っています。 既成の食品を摂ることが多くなると思いますので、添加物などはとても気になります。  ・お話は少々難しかったです。 質問カードへの記入で、手を挙げてだとならない質問がどんどん出てきたと思います。回答もしっかりしていただき、ありがとうございました。		

## 意見交換会事例

No.12

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 24 年 12 月 13 日 ( 木 ) 12:00 ~ 12:40		
場所	山口県立大学 桜翔館 1 階 学習室 ( 山口市桜畠三丁目 2 - 1 )		
共催団体	山口県立大学		
テーマ	最近の食を巡る話題		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	30 人	参加者公募	無し
プログラム	12:00 開会 情報提供「最近の食を巡る話題」 意見交換 12:40 閉会 ( 山口県立大学のイベント「学長ランチトーク」での開催 )		
準備	山口県立大学 ・参加者の募集 ・会場確保 ・昼食及びお茶の準備 山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備 ( パソコン 等 )		
参加者の感想 ( アンケート結果より )	・食中毒を起こさないためにも、普段から一人一人が気をつけなければならないと思いました。 ・時間が短かったので詳しく聞けなかったのですが、とても自分のためになるお話でした。 ・カンピロバクターで重症のギレン・バレー症候群を併発する可能性があるということを知って驚きました。		

## 意見交換会事例

No.13

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 25 年 1 月 15 日 ( 火 ) 18:00 ~ 20:15		
場所	山口大学		
共催団体	山口大学、山口大学生生活協同組合		
テーマ	ノロウイルス等の食中毒の予防について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	18 人	参加者公募	無し
プログラム	18:00 開会・オリエンテーション 18:10 情報提供 「ノロウイルス等の食中毒の予防について」(50分) 19:00 休憩(15分) 19:15 意見交換(60分) 20:15 閉会		
準備	山口大学生生活協同組合 ・参加者の募集 ・備品準備(プロジェクター、スクリーン) ・会場確保  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備(パソコン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・内容も易しくて理解しやすく、満足できました。質問を募って回答していくスタイルは、自分が思いもしなかった他人の質問点なども聞けて良かったです。 ・ノロウイルスに罹ったが、その時できなかったことも今度から気をつけようと思ったし、流行っているからこそ、罹った人にこの知識を渡すことができることから、一人暮らしの多い大学生へのこの会のメリットは高かったと思う。		

## 意見交換会事例

No.14

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 25 年 1 月 18 日 ( 金 ) 12:45 ~ 14:30		
場所	プラザホテル下関		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会、下関市消費者の会		
テーマ	ノロウイルス等の食中毒の予防について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	29 人	参加者公募	無し
プログラム	12:45 開会・オリエンテーション 12:55 情報提供 「ノロウイルス等の食中毒の予防について」(45分) 13:40 休憩(15分) 13:55 意見交換(30分) 14:30 閉会 (下関市消費者の会の会食後に開催)		
準備	下関市消費者の会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備 ・会場確保  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備(パソコン、プロジェクター、スクリーン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・化学・科学は主婦にとってはわかりにくい分野ですが、サイエンスカフェというくくりで正しい知識を広めて欲しいと思いました。 手元にレジメもいただきましたので、家族にも正しく伝えることができます。  ・ノロウイルスの処置でおう吐物の事ですが、塩素系漂白剤でナトリウムの液の作り方を教えていただき安心を得ました。		

## 意見交換会事例

No.15

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 25 年 1 月 22 日 ( 火 ) 13:30 ~ 15:30		
場所	萩市民館 第 3 会議室		
共催団体	山口県地域消費者団体連絡協議会 萩消費生活研究会、阿武町消費者団体連絡協議会		
テーマ	ノロウイルス等の食中毒の予防について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	22 人	参加者公募	無し
プログラム	13:30 開会・オリエンテーション 13:40 情報提供 「ノロウイルス等の食中毒の予防について」(45分) 14:25 休憩(15分) 14:40 意見交換(45分) 15:25 閉会		
準備	萩消費生活研究会、阿武町消費者団体連絡協議会 ・参加者の募集 ・会場確保 ・茶菓の準備 (プロジェクター及びスクリーンは、萩市消費生活センターが準備)  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備(パソコン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・今日のサイエンスカフェは、とても詳しく簡潔な表現でお話され、大変勉強になりました。食中毒は誰にでも起こり得るので、これから更に食事に気をつけたいと思います。 ・ノロウイルス、食中毒等の防止対策は手洗いの励行。調理中、後のことなど気をつけていたつもりであったが、今日の詳しい説明を拝聴し、更に気をはりたと思った。 とても勉強になり、参考になった。		

## 意見交換会事例

No.16

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 25 年 1 月 24 日 ( 木 ) 10:00 ~ 12:00		
場所	海峽メッセ下関 801 大会議室		
共催団体	山口県生活協同組合連合会		
テーマ	食品中の放射性物質		
情報提供者	山口県環境保健センター 専門研究員 佐野 武彦 山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	31 人	参加者公募	無し
プログラム	10:00 開会・オリエンテーション 10:10 情報提供 「放射線に関する基礎知識」(25分) 「放射性物質による健康影響について」(20分) 10:55 休憩(15分) 11:10 意見交換(45分) 11:55 閉会		
準備	山口県生活協同組合連合会 ・参加者の募集 ・茶菓の準備  山口県環境生活部生活衛生課 ・会場確保(料金:7,550円、スクリーン有り) ・備品準備(パソコン、プロジェクター等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・自分で気をつけられるのは“食べ物”位なので、上手に勉強し(リスク分散のため)いろいろな食品をバランス良く摂り、運動を適度にして、気をつけていくしかないですね。 ・個々の意見に対して丁寧に答えていただけ良かったです。なかなか難しい問題ですので、一度の講演だけで理解することは大変でしたが、積み重ねながら学習していければと考えています。		

## 意見交換会事例

No.17

形式	サイエンスカフェ形式		
開催日時	平成 25 年 1 月 30 日 (水) 10:00 ~ 12:00		
場所	JA 防府とくぢ本所 (防府市中央町 4-1)		
共催団体	全国農業協同組合連合会山口県本部、JA 防府とくぢ女性部		
テーマ	残留農薬について		
情報提供者	山口県環境生活部生活衛生課 主幹 白銀 政利		
参加人数	41 人	参加者公募	無し
プログラム	10:00 開会・オリエンテーション 10:10 情報提供 「残留農薬について」(45分) 10:55 休憩(15分) 11:10 意見交換(45分) 11:55 閉会		
準備	JA 防府とくぢ女性部 ・会場確保(スクリーン有り) ・参加者の募集 ・茶菓の準備 (プロジェクターは、JA 防府とくぢ女性部が準備)  山口県環境生活部生活衛生課 ・備品準備(パソコン 等)		
参加者の感想 (アンケート結果より)	・最初の説明は納得いかなかったが、農薬の基準についてわかってきました。 ・託児つきだと更に良かったと思います。 ・農家ですが、農薬を使用する方もかなりのリスクがあります。(夏の時でもカッパを着たり、大変です)消費する方も今日のような講座を聴いて農薬を使わなければならない日本の農業の現状を知ってもらいたいと思います。		